

令和 8 年 2 月 9 日

相談支援部会 報告

今年度のテーマ	「一人の物語から、地域の『空白』を埋める旅へ」
開催回数	9 回
参加機関	指定特定相談支援事業所 9 カ所、委託相談支援事業所 3 カ所、川西さくら園(児童発達支援センター)、障害福祉課、基幹相談支援センター
取り組んだ内容	毎月第 3 金曜日に相談支援部会を開催
実績	1. はじめに(開催の経緯) 今年度、相談支援部会では「未来づくりミーティング」と題し、8 月から 1 月までの計 5 回にわたり、一人の児童の事例を通じた地域課題の検討を行いました。本人が「学校に行きたい」と願いながらも、保護者の送迎が困難であるために通学が叶わないこの事例を、個別の困りごととしてではなく「地域にある支援の『空白』」として捉え、私たち専門職に何ができるかを議論してきました。 2. 検討から得られた「気づき」 半年間のプロセス(課題の深掘り・資源の棚卸し)を通じて、私たち相談支援専門員は大きな「気づき」を得ました。フォーマルな資源への偏重と、インフォーマルな資源の不足 日頃の支援において、私たちは制度(フォーマル)に基づくサービス調整に目が向きがちでした。しかし、今回の事例で浮き彫りになったのは、制度の隙間を埋める「地域の人とのつながり」や「インフォーマルな支え合い」の重要性です。 「地域」をまだ十分に知らないという現状 解決策を模索する中で、「地域のどこに、どんな協力者がいるのか」「誰が助けてくれるのか」という情報を、私たち自身が十分に把握できていないという課題に直面しました。制度を作る前に、まずは「地域を知る」ことが不可欠であると痛感しました。

	3. 令和 8 年度のアクションプラン(話し合いの成果) 12 月には「通学サポート」「有償ボランティア」「人材バンク」といった具体的な解決モデル案が出されましたが、これらを形にするためには、まず足元の基盤整備が必要です。1 月の最終回では、これらを実現するための「令和 8 年度ロードマップ(最初の一步)」を策定しました。
次年度の課題	1.地域との「つながり」を構築する 社協の地区担当職員や民生委員の方々と連携を深め、地域の資源を知る事から始めていく。地域の行事や会議等に参加できるよう、相談支援事業所を地域の関係者や住民に知っていただく事から働きかけていく。 2.強度行動障害に対する支援方針などを検討していく 日中サービス支援型共同生活援助の評価時に事業所から強度行動障害の利用者への支援方針が決まらなと意見が出ていたので、相談支援部会にて地域課題として提言し、強度行動障害の支援方法など検討課題として進めていく。 3.地域生活支援拠点の運営について 現在の地域生活支援拠点における具体的な運営状況、課題、今後の面的整備のあり方について、構成メンバーを調整して相談支援部会のワーキングをつくり協議を進めていく。